

淀川 長治 （映画評論家）

●ふらつしゅ●ばつく●

フェリーニの女千人風呂（女の都）

イタリア映画はあぶら手で人間を撫でまわし抱きしめる。

五十三才で少年に惨殺されたピエル・パオロ・バザリ

ニーは男色詩人。

ことし六十一才のフェデリコ・フェリーニは女色詩人。

六十九才で生涯を閉じたルキノ・ヴィスコンティはホ

モ詩人。

そのフェリーニの「女の都」（一九八〇）二時間十九

分が、ついに日本公開。

「甘い生活」「魂のジュリエッタ」「8½」「サテリコン」「フェリーニのローマ」「フェリーニのアマルコルド」「カサノバ」すべて肉体の蓄（つぼみ）、肉体の開花、肉体の枯死。色（いろ）を描いてフェリーニは映画のビカソ。

かくて「女の都」は目もくらむ女・女・女・女・女・女……その数……二六六三人。

女を見ると目じりが下るスナボラツ（マルチエロ・マストロヤンニ）が列車の中で一人の女の胸を見て足を見て胸のくぼみを見て足からその上の女のトンネルへ想像の目を走らせるうち女の都につれこまれる。

×

右も女、左も女、前も女、うしろも女、女が女と接吻し、女が女と抱き合い、その女、この女、あちらの女、その顔、顔、顔が……スナボラツのありとあらゆる部分を目でなめ廻す。さすがの女色の代表選手もインボ恐怖にさいなまれ逃れ逃れたその行き先とは。

×



女を見ると目じりが下るスナボラツ（マルチエロ・マストロヤンニ）

ここは目を見はる豪邸。いましもその御主人カツツオニネ（巨根博士が一万回目の結婚祝賀のパーティー）。一万本のローソクが巨大なるウェディング・ケーキに輝き、とくいの博士がこの場に逃げこんだスナボラツを案内したその部屋たるや数百人の女の顔写真。その写真的カラ

一鮮やかな女たちの顔が「おいで、おいで、あそばない」のみだら万点の表情。これすべて巨根博士のスナボラツへのおすすめプレゼンツ。

この色ガキ博士……その果てにいたり、さしものアレもちらつきたか……涙ながらに女性たちへの別れの歌をうたいつつ生命を閉じた。

×

かくて、とり残された女たちはスナボラツを博士の身がわりに。彼はおののき震えベッドの下にくぐる。そのベッドの下は、はるかにつづくトンネルとなりそのトンネルの向うは、輝く目もくらむイルミネーションの一大かんらん場。

×

かく書き綴ったところで読者たちにはさぞやチンチンブンブンカンカンであろう。フエリーニの「女の都」こそは女の千人風呂、万人風呂。恥ずかしくて目のやり場に困るばかりと申せば、その道のスキモノはさぞやポルノチックとニヤリズムであろうが、そこがフエリーニ、これ全巻ま

ややこしい映画が来たんやなあ。そんなケッタイな映画、見とうないわ。第一ハダカやないなんてガッカリ。というごとき最底の貧しさにあまんずるやからにはこの女色芸術は猫にコバン。

×

「82」は芸術を生むため女色を必要とした映画監督のもがき。「魂のジュリエッタ」は夫に捨てられんとする妻のあせり。「アマルコルド」は童貞をもとありますイロガキ少年。「カサノバ」は女を食べすぎた老いの果ての枯れすすき。そしてここにフエリーニはそれらのすべての作品への女の復讐を描いての「女の都」。

×

フエリーニ美術は女数千人のスケート・リンクに。かくてその流動美。ベッドの下のトンネルをくぐるや華やかに現われたるは一大イルミネーションの夢幻美術。

アメリカにディズニイあるごとくイタリアにフエリーニがある。みどりは赤に、赤はむらさきに、むらさきは虹に、それらの女、女、女、女の虹のかけ橋が、とけて流れ、花火の散のごとく消え去るまでのこの幻覚。

映画とはまたまさにこれでありますぞ。さよう申したいフエリーニのこの映画芸術。一見二見三見のおすすめ。

さに……真夜中の女の虹。さすればこれぞ裸女たちが手を組む女一〇〇人のメリーポーランドかともその筋のつうは想像されるであろうが、さに非ず。ただの裸女などという三流ボルノはフエリーニの描くところに非ず。すべての女性は、それぞれのニュー・ファッショング、それぞれのニューア・スタイルの衣服をまとい、しかもその衣服、そのボーズをとおしてのエロリズムの洪水。



数百人の女の顔がスナボラツに「おいで、おいで、あそばない」と説いかける。

最終回

差別教育

細川 董（たけし）
（哲学者・文とえ）



▲註▽諱は哲。字体はす
べて高田竹山監修「五体
字類」による。

足の悪いいとい自分の子供をつかまえて、特にオリ
ンピック選手にしようなどとは、親は普通思わないはず
だ。

「そんなむごいことを！」と誰でも子供に同情するはず
だ。

身体障害の場合は、外から見てもつきりしているが、
頭の中の障害となると外から分らないだけ問題は難儀で
ある。脳内の働きが、X線のようなものですぐ分る時代
が来れば簡単だが、今日のようにどこに欠陥があるか判
定しかねるから、脳の一部、例えば、数学、言語、音楽
といった夫々をつかさどる脳神経細胞の脈絡に鈍なる者
をつかまえて、やれ、数学に強くなれ！国語が弱いぞ！
楽譜が弱いぞ！とオリンピック強化合宿みなみに大学受験
目標にしごきにかけるのだからたまたまではない！
脳細胞の数が、誰でも同じだからと、「一把ひとからげ
にやられたのでは落ちこぼれが出るのは当たり前だ！」
プラトンが、人間を欠陥車と見た話は前にもしたが、
運動神経が強い弱い、と平氣でいうくせに数学神経や音
楽神経の強弱となると、教師達は口をとざして平等をと
なえるのだから、たまつたものではない。

脳細胞の数よりも、脳細胞をつなぐ神経の強
度、100点をとった子供の答案を中学の教師が一人一人父
兄に見せるのだ。そして、数学をつかさどる脳障害の遺
伝的欠陥を如実に示す証である。

軽さ、通りのよさ、が問題なのだ。
運動神経に関する限り、大変な差別を日本の教師は私
にやってくれたと、今でもうらんでいる。

どうしても皆と一緒に合せられないからと、甲子園球
場での体育祭への参加をことわられた。

「君！たのむから、明日は学校で自習していくくれ
え」と。

鉄棒で逆上りが出来ない者達は、いつまでも、鉄棒の
向う側に留まられるといった具合の、体育の時間の差
別待遇はさらだつた。

私は、体育の時間をのろうようになった。

今でいう、おちこぼれだ。

その分だけ勉強したから、学業の方では落ちこぼれな
かったが、一般的にいって私の受けた限りの日本の教育
は差別そのものだったとしか、思い出せない。

すなわち、私の受けた日本の教育とは、差別すること
だった、と。

算数の点が悪い時などクラス全員の父兄を学校へ呼ん
で、100点をとった子供の答案を中学の教師が一人一人父
兄に見せるのだ。そして、数学をつかさどる脳障害の遺
伝的欠陥を如実に示す証である。



細川董・ほそかわただす
阪樟院女子大学哲学科卒、元大
阪大「夜の美術散歩」、大
阪三越にて「花と人形展」
を開催。

クラスメイトは朝礼の間中、自分のクラスの級長の顔をうつろに眺めて過すのだ。何というつめたさ。何というむなしさ。何という差別。旧制高校では誰の試験の結果も常にクラスの全員に知られた。

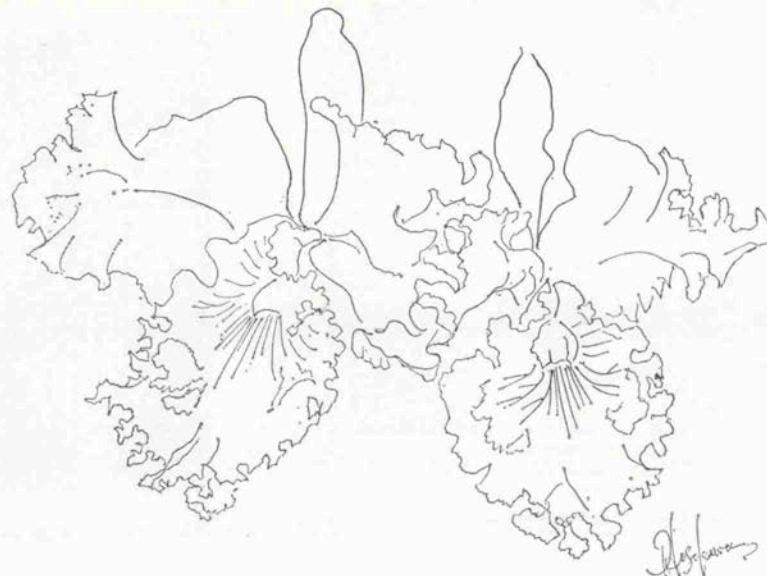
正に、教育とは差別なり、とこれでも思わない方がどうかしているではないか？

これは主として戦前の話だが、今日も教育の実態はあまり変わっていないらしい。本来自分の子供を守るべき母親が自分のことを棚上げして、差別の鬼と化し、子供は教師と母親との谷間で恐怖におののき苦悩しているらしい。この関係を冷静に見られる父親の存在が、今日の差別教育を救う唯一の救いだ。父親まで、差別教育に加担するようでは万事休すだ。ところが今日の家庭では、母親の権力が強いからやっかいだ。おちこぼれ呼ばわりされる子供が出るばかり。

戦争に敗れて、国力が低下したのに、義務教育だけが小学校から中学へと勝ったアメリカのみに引き上げられたのだからたまたものではない。差別する側の質の低下もひどいものだ。

差別されなければならないような者が、差別されるに値しない者まで義務教育の名において、差別しようといふのだから無茶苦茶である。

エレクトロニクスばかり進んで、ロボットを作つてドルをかせぐような国には今に人間は住まなくなってしまったのである。



私の通つた中学では、学年の総数200人ぐらいだったが、一番から五十番までをA組と呼び、五十一番から百番までをB組と呼んで、以下C、D組と組分けして、一年間の成績順に朝礼時にA組B組C組D組という風に並ばせ、その各組の先頭に級長を立たせるのである。B組の級長は、A組のビリよりも一番順位が下といふことを、毎日の朝礼中身にしみこませるのである。

一品からコースまで本場の味をお手頃なご予算でお楽しみいただけます



高級料理から大衆料理まで、食通の中国人も、これは美味しいと太鼓判を押すほど、味・品数ともに定評があります。料理長の李昌玲さんは、テレビの料理番組に出演したり、オリエンタルホテルで中国料理の講師も務めています。

ただ今、栄和飯店ではクリスマス・忘年会・新年会などのパーティの予約を承っています。
お1人様3,000円(税・サ別)から

〈今月のおすすめメニュー〉

四宝素菜(白菜と野菜の料理) 鳥巣三鮮(イカ・エビ・貝柱の料理)
清燐冬菇(しいたけのスープ) 生燐豆腐(牡蠣と豆腐の煮込み)

なお当店は都市計画のため来年早々には仮店舗に移り、ご迷惑をおかけいたします。つきましてはそれまでの間、日頃のご愛顧にお応えをしてサービス期間といたします。

中国料理

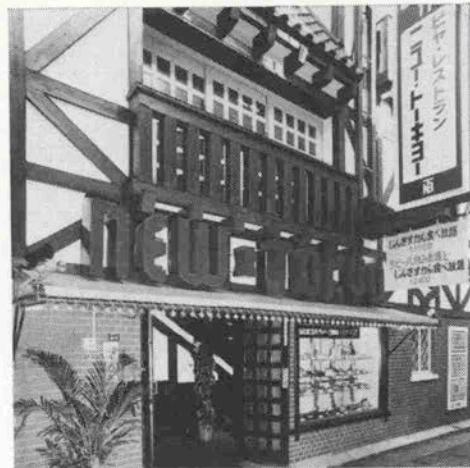
栄和飯店

神戸市中央区栄町通1-2-28 大丸西口中华街

TEL (078) 392-1982

11:00AM~8:30PM 火曜休み

この一年に乾杯



ファミリーに最適——三宮地下街店

ピアノの生演奏の調べ。キャンドルを囲んでの楽しい語らい。レンガ造りの壁に心がやすらぎます。ピザハウスのイタリコもよろしく。

ビール党のオアシス——神戸元町店

1階はピヤホール、2階は炉端焼、3階はジンギスカンとそれぞれ趣向をこらしています。お好みに合わせて、気の合う仲間とお楽しみください。

夜の会合・宴会など小グループでのパーティにご利用ください。

ニュー・トーキョー

三宮地下街店(391)5069 神戸元町店(391)4511



★洋菓子のアンテノールが

大阪にお目見え



アンテノールのケーキ

13 (阪神百貨店地下1F)
3 4 5 1 1 2 0 1 (内線2906)

金

4 6 7 0

金

3 3 1 1

金

4 6 7 0

金

3 3 1 1

金

4 6 7 0

金

3 3 1 1

金

4 6 7 0

金

3 3 1 1

金

4 6 7 0

金

3 3 1 1

金

4 6 7 0

金

3 3 1 1

金

4 6 7 0

金

3 3 1 1

金

4 6 7 0

金

3 3 1 1

金

4 6 7 0

金

3 3 1 1

金

4 6 7 0

金

3 3 1 1

金

4 6 7 0

金

3 3 1 1

金

4 6 7 0

金

3 3 1 1

金

4 6 7 0

金

3 3 1 1

金

4 6 7 0

金

3 3 1 1

金

4 6 7 0

金

3 3 1 1

金

4 6 7 0

金

3 3 1 1

金

4 6 7 0

金

3 3 1 1

金

4 6 7 0

金

3 3 1 1

金

4 6 7 0

金

3 3 1 1

金

4 6 7 0

金

3 3 1 1

金

4 6 7 0

金

3 3 1 1

金

4 6 7 0

金

3 3 1 1

金

4 6 7 0

金

3 3 1 1

金

4 6 7 0

金

3 3 1 1

金

4 6 7 0

金

3 3 1 1

金

4 6 7 0

金

3 3 1 1

金

4 6 7 0

金

3 3 1 1

金

4 6 7 0

金

3 3 1 1

金

4 6 7 0

金

3 3 1 1

金

4 6 7 0

金

3 3 1 1

金

4 6 7 0

金

3 3 1 1

金

4 6 7 0

金

3 3 1 1

金

4 6 7 0

金

3 3 1 1

金

4 6 7 0

金

3 3 1 1

金

4 6 7 0

金

3 3 1 1

金

4 6 7 0

金

3 3 1 1

金

4 6 7 0

金

3 3 1 1

金

4 6 7 0

金

3 3 1 1

金

4 6 7 0

金

3 3 1 1

金

4 6 7 0

金

3 3 1 1

金

4 6 7 0

金

3 3 1 1

金

4 6 7 0

金

3 3 1 1

金

4 6 7 0

金

3 3 1 1

金

4 6 7 0

金

3 3 1 1

金

4 6 7 0

金

3 3 1 1

金

4 6 7 0

金

3 3 1 1

金

4 6 7 0

金

3 3 1 1

金

4 6 7 0

金

3 3 1 1

金

4 6 7 0

金

3 3 1 1

金

4 6 7 0

金

3 3 1 1

金

4 6 7 0

金

3 3 1 1

金

4 6 7 0

金

3 3 1 1

金

4 6 7 0

金

3 3 1 1

金

4 6 7 0

金

3 3 1 1

金

4 6 7 0

金

3 3 1 1

金

4 6 7 0

金

3 3 1 1

金

4 6 7 0

金

3 3 1 1

金

4 6 7 0

金

3 3 1 1

金

4 6 7 0

金

3 3 1 1

金

4 6 7 0

金

3 3 1 1

金

4 6 7 0

金

3 3 1 1

金

4 6 7 0

金

3 3 1 1

金

4 6 7 0

金

3 3 1 1

金

4 6 7 0

金

3 3 1 1

金

4 6 7 0

金

3 3 1 1

金

4 6 7 0

金

3 3 1 1

金

4 6 7 0

金

3 3 1 1

金

4 6 7 0

金

3 3 1 1

金

4 6 7 0

金

3 3 1 1

金

4 6 7 0

金

3 3 1 1

金

4 6 7 0

金

3 3 1 1

金

4 6 7 0

金

3 3 1 1

金

4 6 7 0

金

3 3 1 1

金

4 6 7 0

金

3 3 1 1

金

4 6 7 0

金

3 3 1 1

金

4 6 7 0

金

3 3

New Face



イタリアン レストラン
SE



になつてきている。こういう傾向を踏まえ、今回の商品デザインのテーマは「半具象」においたもの。

約900点の新商品と変型ザーファイアベンダント29バターンなどが展示され、女性客を魅了していた。

★バイヒーショップ
マイケル・ジェイズ
交通センタービル前の横断歩道を南へ渡つてすぐの所には、「マイシヨツプ」「マイケル・ジェイズ」がオープン



ウインドウには大きなバイ

5種類の自家製パイ（店の2Fで焼いている）とマイルドエスプレッソコーヒーがおすすめ品。一度味わ

ンした。壁、テーブル、椅子が真白という、とても洒落で可愛い雰囲気。

子が必ず夢中になるほどオイシイ。経営は河南堂事業部。アメリカで遊学してきたというハナサムな邱博部長のアイデアで始められ、近々お持ち帰りも出来るようになる。

■ 神戸市中央区三宮町1-7-22
営業時間 AM11:00~PM9
コ-ヒー300円、アッブル・エリー・ブルーベリー・ラズベリ-1・ブラックベリーバイ各350円、バイ+コ-ヒー又は紅茶セラフ500円。

★20名の愛読者が参加して「コモ」で試食会

本誌の愛読者を招待しての「新メニュ-試食会」が10月11日（日）午後1時30分からオリエンタルホテルB1イタリアンレストラン・コモで開かれた。抽選で当った20名の愛読者はほとんどが女性。

試食メニューは、スペゲティがあさりといかのトマトソース仕上げ、明太子とうにのバター仕上げ、仔牛肉がマルサラ酒煮とハム巻きローマ風、そしてお好みピツツア。

参加されたグルメの皆さんには、いろいろな味が楽しめて、黙々と賞味した後、「おいしかった」と満足げ。初めての試みだったが、今後も続けたいとのこと。

新製品コーナー



元町1番街の太田べっ甲店のニューデザインのブローチをご紹介します。べっ甲ならではの光沢とつやを生かし、花を型どった大きなブローチは、パーティーなどで胸元を華やかに演出してくれます。

どちらも15,000円

★元町画廊の佐藤廉さん、ともしうの賞を受賞



郷土文化の向上のために地道な活動を続ける人に与えられる第7回ともしうの賞を佐藤さんが受賞。兵庫県下の美術作家の発掘、育成に力を尽くしたということで、新谷英夫、永田耕衣、中西勝各氏の推選を受けた佐藤さんは「まだ実感がわいてこない」と照れた表情。

昌府知事、千宗室、藤本義一、箕久美子、竹村健一さんらが次々にお祝いを述べる。紫のロングドレスに身を包んだ末次さん、この日も大きな眼を輝やかせて祝福を受けている。

四六判・256頁・1500円



★福元ファミリーが
テレビに登場

「新日本文学」や「文学学校」誌上で活発な創作活動を展開している福元早夫さん（西宮市在住）一家が

12月4日午後11時40分から毎日放送テレビ「映像80」に登場することになった。三交替制の労働者として川崎製鉄に勤めるかたわら小説を書き続ける福元さん、最近詩集「生える」を出版した奥さんの登美子さん、そして二男一女の一家の素顔がドキュメンタリーとしてどうまとめられるか。大いに期待したいところだ。

★「ひょうごの仕事うた」

伝承の世界を再現

労働と歌とは切っても切れぬもの。厳しい労働に耐えながら、ある時は楽し力強く歌いつがれてきたのが仕事歌だ。私たちの郷土にもそんな歌声の数々が残っている。田植え歌、酒

造り歌、機織り歌、浜すき歌など失われかけていた貴重な無形文化財を掘りおこし楽譜とともに見事に再現した「ひょうごの仕事うた」がこの

人々を見ると、この人たちの幸福はどこにあるのだろうと当初考えたが、それぞれの場所にふさわしい生活様式があり、幸福の多義性を感じる」と結ばれた。



★「仕事うた」が再現された
程、刊行され



講演する木村重信さん



あたらしいふれあい

家庭養護促進協会編

図書ガイド



あたらしいふれあい

家庭養護促進協会編



チャリティーセール

年。お

りから

国際障

害者年

という

ことで

和菓子

を見な

(3000円・沖縄含)



島醉記 南島詩篇
作井 濡詩集

不遇な子どもたちに里親の世話をしてきたワーカーや里親さんたちの文集。「親と子の絆をもとめて」の副題に運動を進めている人たちの祈りが聞こえてくる。大学教授などを中心に発足する予定で、今後の交流の深化が期待される。

★生菓子経営研究会が
チャリティーセール

10月17、18の両日、三宮神社において「和菓子のひろば」と銘うつて、チャリティーセールを行なった。

同研究会は今年で創立20周

年。

りから

国際障

害者年

という

ことで

和菓子

を見な

(3000円・沖縄含)

徳之島出身の詩人、ハガキ形式の南島通信を出し続ける作井さんがこの二、三年に発表した詩作をまとめ、第一詩集を刊行。「時代の曲がり角になる」と島が見えてくる」という著者のへ島への傾倒ぶりは、まさに島に静づかにふさわしい。視えざる島を幻視しつつヤマトで生きる者のすまじい葛藤に詩空間が躍る。

酒と料理を提供する人のための経営専門誌

居酒屋

第8号

別冊食堂 定価2400円
●A4変型判270頁(円300)

●創作居酒屋料理(汁)

●居酒屋料理研究(カラーグラビア)
●こんにゃく料理(工夫したいでバラエティ豊か)

独立企画 小規模店独立開業事例

和洋大衆居酒屋のオリジナル超人気商品

AA

特別企画
急変するマーケットに果敢に対応する注目の業種・業態
新店新商法9事例

現代消費者の飲酒動機・飲酒行動を覗くみえ、独自の店づくりと
経営手法によって客を吸収する居酒屋9店を選び、詳細に分析研究



柴田書店 東京都文京区本郷3-33
03(813)6031代

豪華さとくつろぎと本物の味



ハイセンスな神戸っ子の憩いのオアシス
気品ある雰囲気のなかでおくつろぎください



喫茶館
英國屋

三宮・神戸国際会館浜側

☎ (078) 251-4562

7:30AM-10:30PM 第3水曜日休み

(姉妹店)

喫茶館 仏蘭西屋

三宮・フラワーロード(市役所前) ☎ 232-4643

一男一女

桜井 利枝
絵 / 辻 司



まち子は此頃自分が少し弱気になり過ぎてゐるのではないかと思う。和彦が別居して、一人になった時のあの解放感と、ある種の充実感は、いつたい何處へ消えてしまったのかと、我ながら不思議な氣持がするのであった。日本人の平均寿命まで、まだ二十年がたつぶり残されているのである。0才の子が成年に達する、それと同じ年月ではないか。まち子は、はつと吾に帰った。

(駄目だ駄目だ。老化現象に触まれたりしては……)
彼女はこの数日、和彦たちとの同居の問題に囚われ過ぎていたことを反省している。そもそもその原因は悦子がお母さんが淋しいのなら自分たち家族が同居する、と言い出したためである。それというのも、まち子が佐久子の愚痴をこぼすのを、悦子が聞き流しかねてのことであるが、まち子の反省は、そこまで行き届いてはいない。

(今から婆さんあつかいされちや、かなわない。老化への自衛は、まず自分の若さに自信を持つことだわ)すぐにも跳ね起きたいような衝動にかられたが、結局夕方になって和彦が顔を見せるまで、まち子は床を離れようとはしなかった。

和彦は心配して、

「五十腰だなんて言つてないで、医者に診てもらえばいいんだよ。明日、佐久子を付き合わせるといいよ」

とすすめる。

「別にそこまでしてもらわなくとも、一人でも行けるわよ」

時間が時だけに、まち子の返事はそつけない。和彦はむつとした顔になつた。

「ちやんと言ふことを聞かなきや、駄目じやないか」

どんな場合にも、母親に對して荒い言葉を吐いたことのない和彦である。まち子は啞然となつた。佐久子がそもそもうでなければ、悔しさと慚めさで、彼女の身の内は火のように熱くなつたに違ひないのである。

まち子は、和彦の目に映つてゐる、自分の老いを感じざるを得ない。鏡にうつる自分の老いを、自分の目では識つてゐるつもりでも、和彦の目を通せばどのように見えるのか、彼女はまるで想像がつかない。幼ない頃「母さんはきれいだね」と言つた子が、今はどのような視角を自分に向けてゐるのか。自分で感じてゐる老いよりは、恐らく何十倍かの精密度でとらえているであろう和彦の目を、まち子は強く意識した。それは屈辱的ではあるが、どこやらにマゾめいた甘い痺れをも伴つてゐた。「ああ、いやだいやだ。年はとりたくないものだわ。わが息子に、こんな偉そうに言われるなんて……」

あとは涙声になつて、ふとんの中でもぐもつてゐる。

まち子の泣き癖を知つてゐる和彦は、苦り切つた視線を彼女の上に落としているが、それとはやや不釣合いな、穏やかな声で慰める。

「どんなことがあっても、母さんの面倒は僕が見るよ。この家を手放すのが不賛成なら、何も無理に売ろうて言つてるんじゃないんだ。だからね、何かあつた時にはすぐ僕たちに知らせてよ。佐久子もそれなりの自觉を持つてるんだから……悦子は嫁に行つた者だよ。分つてるんだろうね、母さん」

何を分れと言つてゐるのか、まち子には見当がついてゐる。いつか遅くやつて来て泊つた晩、まどろみかけた耳で聞いたので、確信はなかつたのだが、あの時、

「悦子夫婦に、この家を渡すことはないよ」

と言つた和彦の声は、やはり現実のものだつたのである。

(何という身勝手な子……)

一度はそう思つたが、どんなことがあつても自分が倒をみると言われてみれば、まち子はやはり嬉しいのである。

その夜、夕食をすませて三人が茶の間で雑談をしてゐるところへ、ピアノ教師の娘が細くふすまを開けて、遠慮がちにおとずれた。

「お願いがあるんですが」

と言う。まち子は誰も見ていないテレビを切り、愛想よく娘を招き入れた。

「あらたまつて、どうなさつたの」

まち子はこやかに尋ねる。

「あのう、本当なら姉がうかがうべきなんですが、ちょっと小母さまのお気持を、私に聞いてほしって言うものですから……姉のお友だちで、アメリカに留学していらっしゃつた方なんですが、近いうちに英会話の教室を始めたいとおっしゃつてゐるそうなんです。それで、もしお差支えがなければ、こちらさまでお貸し下さらないでしようか、と姉が……」

その女性にはアメリカ人のファインセがあり、彼は県内の或る予備校で英語を教えながら、日本語と日本文学を勉強しているのだそうである。

「じゃ、その彼氏と二人で教室をやるの」

和彦はこの話に興味をもつたようである。

「さあ、そこまでは、私……」

彼はさすがにまち子に気兼ねをして、自分の意見を差控えているが、目には諾意がありありとうかがえる。しかし、まち子は慎重であった。

「お話は伺いましたわ。突然のことなので、少し考えさせて下さいって、お姉さんと言つて下さいな」

「はい、わかりました。そう伝えます」

稽古を済ませた娘は、それからはまち子たちの団居のなかに加わった。

まち子にとってそれからの一ヶ月は、文字通り矢のような速さで過ぎていった。近くの県立病院への通院は、週に一度から二週間に一度で済むようになり、ほとんど全治に近い状態にまで回復していたが、その間に、親戚での二件の葬儀に参列しなければならない破目になった。一人は九十才に近い高齢で、まずは順当といえる死であつたが、もう一人の方はまち子よりは少し若い、五十年代半ばの男性であった。停年を数年先にひかえていたが、総領の息子が大学一年生という、働き手がまだまだ必要な家族を遺しての死であった。

まち子は、夫が六十才の誕生日を前にして急死した日の、混乱と放心の入り交つた自分の心理状態を、その未亡人のうちひしがれた姿の上に、さまざまと再見する思いであつた。彼女にくらべれば、まち子の場合は既に悦子を嫁がせた後であつたし、和彦も一人前の社会人で、ひとりかかるくる生活の重圧は、その人とは比べものにならない軽微なものであった。

まち子はあらためて、自分の幸運を思うのであつた。人からよく言われるように、結構すぎる」という形容は、強ち的外れではないのかも知れないと思つた。

（みんな、あなたのお陰よ）

こういう場合まち子は殊勝にも夫の靈前にむかって、

心からなる合掌を捧げるのであつた。

英語教室の返事も延び延びになつてゐたところへ、娘の姉が当の女性を連れて頼みに来たのは、つい二三日前であった。

アメリカ帰りで、国際結婚をしようとしている女とは、いったいどんな人物かと、まち子は多少の危惧を抱いていたのだが、会つてみると彼女の想像とはまるで違つて、華奢ながらだつきに地味な身なりの、しかしかなりしっかりとした根性の持主とみられる、三十才くらいの女であった。とびきりとまではいかぬまでも、何となく好感の持てる相手だと、まち子はほつとした。

和彦は勿論大賛成である。それなりの収入をまち子が得ることの他に、精神衛生的にも、そのような新しい生き方を目指す若い女と、母親がつきあつて刺激を受けることのメリットを、彼なりに考えてのことであつた。

「母さんの願望と生活意識とは、まるでアンバランスなんだから、もっと自分を鍛え直そうという気持ちにならなきや駄目だよ」

と彼は言った。確かに、これまでの生活意識を組み立て直さなければならぬ必要は、まち子自身痛感しているのである。

（でも、これもしんどいことではある……）

しかしそうでなければ、これまでの自分を済し崩しに消耗してゆくだけの、ただの余生にすぎない日々を送ることになりかねない。

（とりあえず、教室を広めようか）

まち子の気持は傾いていた。そして、どうせ広めるからには、もっと他の科目も設け、応接間の他に、今は使っていない隣の六畳の部屋も、フルに活用するだけの講座を組んではどうだろうかと考えるようになった。彼女の家は大通りから一筋入った四ツ辻に位置しているので、立地条件も悪くはない。

その時まち子の頭に浮かんだのは、田中涼子のことであつた。あれから一度電話が架かつただけで、特に接近

してくる様子もみられないが、もし彼女に花の教室を持つ
とうという意志があるなら、誰を差し置いても涼子をむ
かえてやりたいと、まち子は思うのである。

歳末商戦の開始が年々早くなるせいか、十一月の下旬
に入ると、何となく気ぜわしい雰囲気が街に流れる。ど
うせのことならデパートが混まない内にと、まち子はい
つもより日を繰り上げて買物に出かけることにした。歳
暮の品を送らせねばならない、二三の用も兼ねていた。
S銀行での引出しを済ませると、そこから向い側のA
銀行へ電話を架けた。涼子と昼食をとりながら、彼女の
意向を打診しようと考えていたのである。月末をひかえ
て忙しいのではないかと思ったが、涼子は快くつき合う
という返事である。



待ち合わせた場所に現れた涼子は、行く店を決めてい
ないまち子を、メーン通りから少しあつた所の、落着
いた雰囲気のレストランに案内した。

まち子は単刀直入に用件をきりだした。涼子は思いが
けない話に驚いたようだったが、峻巡することなく、ま
ち子の厚意を受け入れる意志を示した。

「銀行ではどの店にも、古くから大きな流派の先生が入
つておられますので、私などの割り込む余地はないんで
す。実家の方も弟の家族が同居していまして、広い部屋
が空いていませんので、もっと修業を積んで家元の代稽
古をやらせてもらえるようになるまで、教えることは諦
めていたのですが……ほんとうに夢のようなお話で、あ
りがとうございます」

涼子の喜びようは、まち子にも予想以上のことであっ
た。涙もろいまち子は、すぐに胸が熱くなるのである。
「じゃあ、来年四月からということでどうかしら。それ
までにいろいろ相談して、準備をすればいいんだから」
「はい。どうぞよろしくお願いいたします」

涼子は深く頭を下げた。

彼女には銀行の仕事があるので、日曜日の午後から夜
にかけての稽古が望ましいようだが、平日の夜だけでも
いいと、遠慮がちに希望をのべた。まち子は、涼子の最
初の弟子になることを約束した。

その翌日、まち子は英語教室を承諾する旨を先方へ伝
えた。

いちど決心がつくと、まち子の頭の中にはいろいろの
プランが浮かんできたが、和彦から企画倒れになること
を注意されているので、当分は欲張らずに、ピアノと英
会話と華道の三科目でやつてゆくことにした。

しかし、一般に華道と茶道は併設されていることが多い
ので、誰か適當な先生があればと考えたが、夫の古い
友人である田埜一穂の妻が、家で茶道を教えていたこと
を思い出した。

いきなりそういう話をもつて訪問するのも気がひける

ので、まち子は電話でそれとなく、先方の意欲の程を探つてみることにした。

電話で出てきたのは主人の方であった。若い頃から俳句を嗜み、今はその派で名の知られた俳人である彼は、普通の挨拶の会話にも、自若とした声のひびきをたくわえていた。

「あなたには、いちどお目にかかりたいと思いながら、ついご無沙汰をしています。いかがですか。もうお慣れになりましたか」

先年夫の三回忌に来てもらった折、故人に対するさりげない心情を詠んでくれたことを、まち子は心の中で思ひ返していた。

「はい、どうにか……でも一人で暮らしてみますと、それなりに自由で、なかなか捨てたもんじやございませんわよ」

まち子は訳もなく、そんな強がりを言つてみたりする。

田埜は正直に聞きとめていた。

「そうですか。それなら安心です」

「あのう、実は奥さんに一寸おうかがいしたいことがあります、お電話を差上げたんですが……奥さんはおいででしょうか……」

躊躇いがちに尋ねるまち子の耳に、意外な応えがかえってきた。

「家内は、この九月に亡くなりました。お報らせすべきかとも思ったのですが、ごく内輪で葬式を済ませることにしまして、失礼をした次第です」

「まあ、そうでしたの」

まち子は驚きのあまり、それまでの意気込みを一度に萎ませてしまった。しかし先方は冷静に用件の主旨を質し、それなら家の友人に立派な先生があるので、紹介くらいならさせてもらうと、協力的な返事をしてくれた。それから一週間ばかり過ぎて、まち子もそろそろ暮れの雑用にとりかかろうとしていた日の朝、田埜から電話が架かり、こういうことは結局双方の信頼関係が成立し

なければならぬ事なので、一度気楽な気持で会つてみてはどうかと言うのである。まち子に否やはなかつた。

「では、どこか中間点でお会いすることにしましようか。場所はあなたの方で決めていただいたら、案内して行きますから」

と言ふ彼のことばに、まち子は先日涼子に連れて行つてもらったレストランの名をあげた。

「それじゃ、明日の夕方五時にお待ちしております。どうぞよろしくお願ひいたします」

まち子は見えない相手に、何度も頭を下げた。田埜の控え目な厚意が、彼女にはありがたかった。

まち子は久しぶりに和服姿で出かけることにした。会食の相手が茶道の師匠ということもあるが、年末のあわただしい時なればこそ、しつとりとした着物の感触を楽しむのも、彼女の張合いなのである。

田埜といっしょに現れた女は、まち子が考えていたよりはずつと若い人であった。額の生え際が美しく、全体に品の良い人柄をじませていた。話してみると、そういう仕事の人にはありがちな慇懃さが、まるで身についていないことが感じられた。まち子は、田埜の人選を感謝せざるを得ない。

その女が自分の茶道経験を語るのを、まち子は料理を食べながら聞き入つたが、何となく視線をそらせた時、店に入つて来た一組の男女が、強い衝撃をもつて彼女の目に映つた。それは和彦と涼子の二人であつた。

店内は満席であったが、前もって予約してあつたと見え、二人はボーイの案内でだいぶ離れた窓際の席に腰を沈めた。かれらは殆んど他所に目をやることなく、恋人同志のようひつそりと向き合つてゐる。

まち子は軽の中を得体の知れぬ熱いものが駆けめぐるのを感じた。彼女は目前の女の話を半ば上の空で聞きながら、抑えようとしてもますます昂まつてくる血のざわめきを愉しんでいた。一瞬、彼女の脳裏を取り澄ました佐久子の顔がよぎつていつた。

壁の穴情報 VOL-2 (その1)

人気メニュー紹介

[あさり・しめじ・椎茸・納豆]をブレンドにしてスパゲティにかけたもの

材料	産地
あさり	有明海、浜名湖、そして瀬戸内のものを広島にて加工
しめじ	奈良県の西吉野の山林にて作られたもの
椎 茸	四国徳島の阿南地方のもの
納 豆	地元神戸、須磨で国産の大豆を使ったもの

[たらこ・うに・いか・いくら]をブレンドにしてスパゲティとからめたもの

材料	産地
たらこ	北海道釧路でスケトウダラの卵巣を加工したもの
うに	佐賀県は唐津特産のものを加工
いか	瀬戸内海でとれた紋甲イカをポイルしたもの
いくら	北海道は根室でサケの卵を加工したもの

まだまだ、これ以外に45種のスパゲティを、ご用意いたしております。

このようにしてみると、身近なところにもまだまだおいしい味覚が眠っているのですね。

サア、あなたも(貴方も)私達、壁の穴スタッフと一緒に、貴方だけの、新しい味覚の旅に出かけてみませんか?

パーティ・コンバなども承わっておりますので、お気軽にお電話下さいませ。心よりお待ち申しております。

東京・渋谷

スパゲティ専門店



<三宮店>

中央区三宮町1-5サンロイヤル神戸10F(さんプラザ)

TEL 078-332-4551

営業時間11AM~9PM 第1・3月曜休